

2021年7月吉日  
世界自動車調査月報編集長 安藤 久史

## 部品売上高上位 120 社、2020 年はコロナ禍で業績格差広がる

謹啓 時下益々清祥のこととお慶び申し上げます。  
平素より、当社の調査・出版業務にご協力いただき、誠にありがとうございます。

さて、当社では『FOURIN 世界自動車調査月報』2021 年7月号(2021年7月10日発刊)にて、「2020年の部品メーカー売上高ランキング(上位120社)」をテーマとしたレポートを取りまとめたので、ご案内申し上げます。

- 2020 年売上高ランキングは首位 Bosch が 518 億ドル、2 位デンソーが 394 億ドル、3 位 ZF が 370 億ドル。
- 比較的コロナ禍の影響が軽微であった中国系が順位を上げており、中国系として濰柴動力が初のトップ 10 入り。
- 2021 年は、同年初からの世界的な半導体不足が、各社の業績に影響を与える予想。

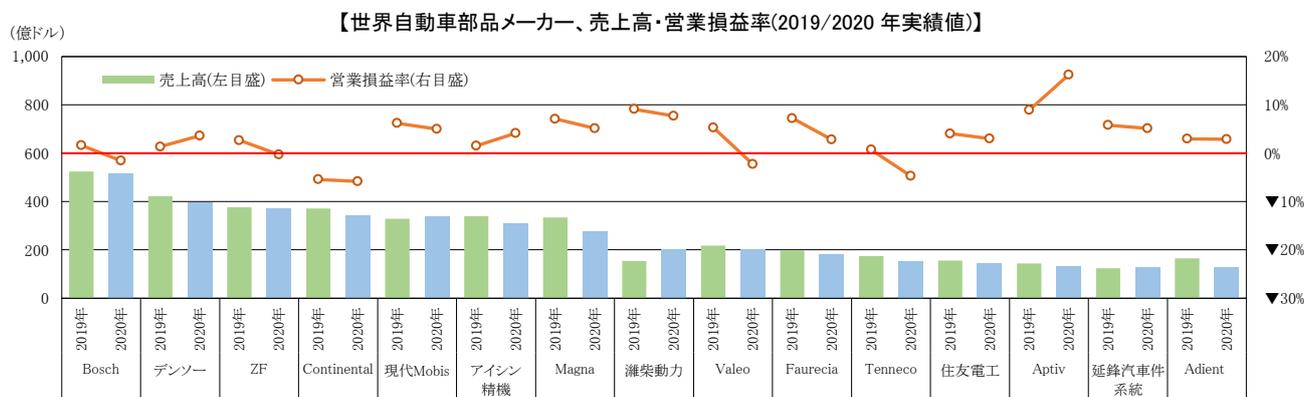
FOURIN が独自に世界主要サプライヤーの自動車部品事業売上高をドル換算で集計したところ、2020 年(度)は各社が主力とする市場におけるコロナ禍の影響の度合いにより業績の明暗は大きく分かれました。首位 Bosch が前年比 1.2%減の 518 億ドル、2 位のデンソーが同 6.6%減の 394 億ドル、3 位の ZF が同 1.4%減の 370 億ドル。2020 年は比較的コロナ禍の影響が軽微であった中国系が順位を上げており、濰柴動力が同 32.1%増の 203 億ドル(前年 16 位→9 位)となり、中国系として初めて上位 10 位に入りました。一方、営業損益/EBIT は、サプライヤーの多くが減益、赤字となるなど、売上高以上にサプライヤー間で大きな差が出ました。売上高上位 20 社では、Bosch(2020 年営業損失/EBIT: ▼8.0 億ドル)や ZF(同▼1.1 億ドル)、Valeo(同▼4.6 億ドル)、Tenneco(同▼7.2 億ドル)が赤字に転落しました。

2021 年(度)は、年初からの世界的な半導体不足や素材の不足などが重なり、各社の業績に影響を与えると考えられます。世界的に新型コロナウイルスのワクチン接種が進む中で、世界の自動車市場は回復傾向にありますが、部品不足による供給体制の脆弱化により、自動車の需要に供給が追いついていない事態となっています。サプライヤー各社にとっては、新規事業や新領域の開拓、コスト削減策などが業績回復のカギを握っています。

ご参考までに、『FOURIN 世界自動車調査月報』2021 年 7 月号に掲載しますグラフを下記に掲載いたしました。

当プレスリリース内容に関してのご不明な点やご質問は、『FOURIN 世界自動車調査月報』編集長の安藤(TEL: 052-789-1143、FAX: 052-789-0966、E-mail: h.ando@fourin.com)までご連絡ください。

敬 具



注)タイヤ、車両組立が売上の大半を占める企業は除外(Continentalはタイヤ事業分の売上を、Magna Internationalは車両組立分の売上を、それぞれ除外した)。自動車・二輪車の部品売上高を対象としたが、一部で一般産業向けを含む。営業損益率は一部 EBIT で代用した。  
(各社財務資料、各種報道より FOURIN 作成)